

2023

岡山の高校図書館プレゼンツ

でーれーBOOKS



でーれーBOOKSとは…岡山の高校司書による高校生向けのおすすめ本コンテストです。図書館には多様なジャンルの本があることを知ってもらいたい!という願いから、小説以外の本を選考対象としています。岡山県高等学校図書館ネットワーク研究委員会が主催し、今回で10回目となります。でーれーBOOKS2023大賞本には、高校の3年間をインドで過ごすことになった著者が、その体験を女子高生らしい素直な言葉で綴った作品が選ばれました。

大賞



『JK、インドで常識ぶっ壊される』

熊谷 はるか / 河出書房新社

2位



『さばの缶づめ、宇宙へいく』

小坂 康之・林 公代 / イースト・プレス

3位



『目の見えない白鳥さんとアートを見にいく』

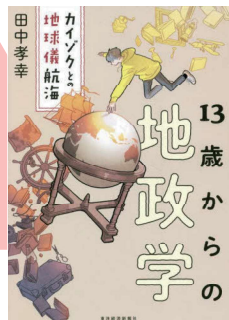
川内 有緒 / 集英社インターナショナル

ノミネート作品



『差別はたいして悪意のない人がする』

キムジヘ
大月書店



『13歳からの地政学』

田中 孝幸
東洋経済新報社



『地球は食べ物』

ホモサピ
KADOKAWA



『私の中のこの邪悪な感情をどうしよう?』

石井 裕之・押切 佑美・小川 めぐみ・大槻 弥生
祥伝社

★ 大賞の著者からのメッセージと同様の おすすめコメントは裏面に!

大賞



『JK、インドで常識ぶっ壊される』

熊谷 はるか / 河出書房新社

親の転勤に巻き込まれる形で、思いもよらずインドに住むことになった著者。戸惑いながらの日常の描写は高校生らしい言葉で、楽しかったり考えさせられたりしながらテンポよく読めました。／「今まで常識だと思っていたことで、当たり前じゃないんだ」という感覚。／本を通じて、自分の常識が覆される経験をどうぞ。



著者からのメッセージ

この度は大賞に選んでいただき、大変光栄に思います！

「インド」というと、皆さんはどんなことを想像するでしょうか。以前の私にとっては、とてつもなく遠く、自分とは関わりのない場所でした。しかし、そこに女子高生として飛び込んだときに、わたしが見たもの、感じたこと、過ごした時間を、この本を通して同世代の皆さんにも一緒に出会い、体験していただければうれしいです。そして、遠く思える場所やひとを、少しでも皆さんの心の近くに感じてもらえることを願います。



2位

『さばの缶づめ、宇宙へいく』

小坂 康之・林 公代 / イースト・プレス

高校生が開発したさば缶が宇宙食になる！希望があって元気になれるノンフィクションです。／生徒と大人たちが力を合わせて本気になる、こんなこともできてしまうんだ！／高校生の活動が宇宙までつながっている！夢がいっしょに広がります。



3位

『目の見えない白鳥さんとアートを見に行く』

川内 有緒 / 集英社インターナショナル

「見えない人がアートを見るの？」タイトルに惹かれました。／目の見えない人に自分が感じたままアートを伝える。アートの見方が変わります。／美術作品を見ながら対話することで、こんなにも自由になれる。この本を読めば、そのかけらが味わえます。



2023

おすすめの本 BOOKS

本書のおすすめコメント

『差別はたいてい悪意のない人がする』

キム ジェ / 大月書店



自分の中にあるバイアスについて気づかせてくれます。／“差別をしない”とはなんと難しいことだろう。多くの人がこの本にあるように人権について深く突き詰めて考えていけば、社会は変わるのではないだろうか。

『13歳からの地政学』

田中 孝幸 / 東洋経済新報社



世界の仕組みを学んで色々なことを考えるきっかけにしてほしい。／会話形式で書かれていて、読みやすいです。／これから、この不安定な国際情勢を生きていく上で、ぜひ読んでほしいです。

『地球は食べ物』

ホモサビ / KADOKAWA



著者は身の回りの虫や魚や木の実や草を、法に反しない限り何でも獲って調理して食べてしまう人気 YouTuber。／著者がどのように生き物と接してきたのかがよく書かれていて、興味深く読みました。／夢中になれることがあるのは素晴らしい！

『私の中のこの邪悪な感情をどうしよう?』

石井 裕之・押切 佑美・小川 めぐみ・大槻 弥生 / 祥伝社



他人から受けてしまった悪意がもてさらに自分を傷つけたり貶めたりしないようにする方法が書かれた本です。／負荷を下ろして生きていくヒントがもらえる1冊。／思春期真っ只中のあなたに、そっと薦めたい本です。